慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ソフトニュースが伝える外国像
Sub Title	Images about foreign nations in soft news
Author	山本, 明(Yamamoto, Akashi)
Publisher	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
Publication year	2006
Jtitle	メディア・コミュニケーション : 慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要 (Keio media communications research). No.56 (2006. 3) ,p.73- 88
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1121824X-20060300-0073

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ソフトニュースが伝える外国像

山本　明

本稿では，外国関連報道におけるソフトニュースを対象として，ソフトニュースが伝える外国像を明らかにする。

本稿では，第一に，ソフトニュース，および外国関連報道におけるソフトニュースに関する先行研究を概観し，研究の目的を述べる。第二に，ハードニュース（政治経済ニュース）との比較分析を通じてソフトニュースの報道形式の特徴と言及国を明らかにし，さらにソフトニュースが伝える外国像について地域別に検討を行う。第三に，分析結果に関する考察を行う。

▶1　問　　題

(1) ソフトニュースとは

ニュースをハードニュース，ソフトニュースに分類する試みは少なからず行われてきたものの，分類基準について統一した見解が示されているわけではなく（萩原，2001），ソフトニュースについての共通に受け入れられている定義は存在しない（Baum，2002）のが現状である。

たとえば上滝（1989）は政治，経済，社会，その他をハードニュース，文化，話題，スポーツ，気象，PRをソフトニュースとして分類している。また，Scott & Gobetz（1992）においては，ハードニュースは進行中の政策問題，現在の公的な出来事の事実説明，オーディエンスに関係のある社会的イシュー・論争に焦点を当てているストーリーであり，ソフトニュースはヒューマンインタレスト・トピック，特集，非政策イシューに焦点を当てているストーリーであるとされる。また，ニュースをハードとソフトのいずれかに分類するのではなく，“ breaking（hard）news ”, “ soft news ”, “ situations ”（Carroll，1985），あるいは「ハード」「バイオレント」「ソフト」（萩原，1992，2001），といった形で３つのカテゴリーに分類している研究も見られる。

一方，特にハードニュースは，タイムリーさから定義づけられることもある。Jamieson & Campbell（1983）は，ハードニュースは先行する24時間以内に発生した，あるいは明らかにされた出来事の報道であり，進行中の事柄についてのイシューを扱っていると述べている。また，Smith（1979）は，ハードニュースとソフトニュースの定義について，「ハードニュースとはタイムリーさと，一般的な重要性あるいはそれらの暴力性（犯罪や事故）が理由で関心を持たれる，現在の出来事についての報道である。ハードニュースは時間経過とともに急速にニュース・バリューが減退する。一方，ソフトニュー

スは，特集と，比較的ゆっくりとニュース・バリューを失う，現在の出来事についてのニュースから成る。」（p.138）と述べている。

もっとも，ニュース内容とタイムリーさとは関連があることも示されている。ニュース内容によってソフトニュースとハードニュースを分類したScott & Gobetz（1992）の分析結果では，ハードストーリーのうち95.89%は，性質においてタイムリーでもあり，一方，ソフトニュースストーリーのなかでは74.56%のみがタイムリーであったことが見出されている。

また，個々のニュース項目をハードニュース，あるいはソフトニュースに分類するのではなく，ニュース番組全体をハードかソフトかに分類する研究も見られる（Baum, 2002; Prior, 2003）。

（2）外国関連報道におけるソフトニュース

外国関連報道では，どのような内容が報道されているのだろうか。

Wu（1998）は国際ニュースフローに関する諸研究を検討し，政治問題および経済イシュー，そして軍備とスポーツを，最も頻繁に報道される国際トピックとして挙げ，これらの最も頻繁に報道される国際トピックは「ハードニュース」カテゴリーに属するようであると述べている。

また，日本の外国関連報道に関する研究としては，川竹・杉山・原（2004），金山・クーパー＝チェン（2005）が挙げられる。川竹ら（2004）は，外国関連報道のほとんどが戦争・紛争・事件・事故・災害・犯罪などのいわゆる“violentなニュース”とそれに関連するハードニュース（外交，政治など）であって，ソフトニュース（社会一般，文化芸術，風物・話題，行事など）は極めて少ないと指摘し，その結果，外国関連ニュースのかなりの部分が，対象国のイメージをネガティブなものにしていると述べている。また，金山ら（2005）では，「国際経済・貿易」「国際政治」「国際紛争，軍事・防衛」の３つのカテゴリーが国際ニュースの約半分を占めているという結果が報告されている。

これらの研究は，外国関連報道においてソフトニュースの占める割合は少ないということを示していると言えよう。

（3）研究の目的

ニュースのソフト化・娯楽化が指摘され（たとえば萩原，2001），ソフトニュースの増大傾向が知られているにもかかわらず，ソフトニュースに焦点を当てた研究は数少なく，また，外国関連報道のソフトニュースのみを対象とした研究は見当たらないと思われる。しかし，ニュース内容によりハードニュース／ソフトニュースを分類するとすれば，ソフトニュースは定義上ハードニュースとは異なった内容を報じていることになり，外国関連ソフトニュースは外国関連ハードニュースとは異なった側面から外国の姿を伝えていると想定するのは当然の帰結であると思われる。つまり，ソフトニュースが伝える外国像は，ハードニュースが伝える外国像とは異なったものであるということである。

外国関連報道の内容について検討している研究においては，外国関連報道においてはソフトニュースが少ないということが指摘されているが，ソフトニュースの増加傾向が見られることが指摘され，なおかつソフトニュースはハードニュースとは異なった観点から外国を伝えているとするならば，それらの伝える外国像を明らかにすることは多少なりとも研究意義を持つのではないかと考える。

研究の目的は，大きく分けると２点である。

まず，外国関連ハードニュースの比較分析を通じて，外国関連ソフトニュースの特徴

を明らかにする。後で述べるように，この研究ではハードニュースとソフトニュースをニュース内容で分類しており，両者の内容が異なっているのが前提になっている。そこで，ここでは外国関連ハードニュースと外国関連ソフトニュースとを，報道形式，および，言及国（どのような外国に関して言及しているか）について比較する。

次に，ソフトニュースで報じられている内容を具体的に参照し，ソフトニュースが描く外国像の特徴について，地域別に検討を行う。その際，日本との関連性の有無，および，日本と関連がある場合はどのように関連しているのかに特に注目する。金山ら（2005）はニュースの国際流通とニュース価値に関わる研究を概観し，「海外で発生した当事者国に関係するニュース（home news abroad）」がニュースを決定する要因になるとみられると述べている。もっとも金山ら（2005）は，発生したニュースが国内か海外か，および日本関連のものかどうかについて検討を行った結果，日本の国際ニュースにおいては純粋な国際ニュース（海外で発生した外国に関するニュース）が６割近くに上るという結果を報告している。ソフトニュースは性質上ニュース性の低いニュースであり，日本との関連性は外国関連ソフトニュースにおいて，外国関連ハードニュース以上に意味を持つことが予想される。ここでは地域（アジア，北米，欧州，その他）別にみた外国関連ソフトニュースの内容の特徴を，日本との関連性に焦点を当てて明らかにする。

▶2　方　　法

（1）分析対象

NHKニュース10，TBSニュース23の2003年11月～2004年７月における外国関連報道から研究対象となるソフトニュース，ハードニュースを抽出した。

ソフトニュースおよびハードニュースの定義・分類基準は明確ではないが，ここでは先行研究を参照し，それらにおいて共通して「ソフトニュース」に分類されるニュース，共通して「ハードニュース」として分類されるニュースを抽出したいと考える。その理由は以下の２点である。

第一に，いくつかの分類において共通してソフト，あるいはハードとして分類されているもののみを対象とすることによって，分析対象がソフトニュースである，あるいはハードニュースであるということに対して，ある程度の合意が得られていると判断されうると考えた。

第二に，本研究の目的の１つはソフトニュースとハードニュースの比較である。典型的なソフトニュース，ハードニュースのみを分析対象とすることによって，両者の特徴がより明確になると考えた。

ソフトニュースはニュース・ストーリーとして言及されることも，番組として言及されることもあるが（Prior，2003），ここでは，番組全体がソフトニュースであるか否かではなく，番組の中で報道されている個々のニュース項目の中から，報道内容によって，ソフトニュース（およびハードニュース）を抽出する。

具体的には，以下のような内容のニュースを，それぞれ典型的なソフトニュース，ハードニュースであるとみなし分析対象とすることにした。

ソフトニュース：文化，話題，スポーツ（スポーツコーナーのニュースをのぞく）
ハードニュース：政治，経済

どのような内容のニュースがどのカテゴリー（「文化」，「政治」など）に含まれるかは，

研究実施者が判断を行った。また，抽出に際して，判断に迷うもの，多事争論（TBSニュース23），および，報道件数の極めて多かった日朝関係ニュースは除外した。

（2）分析項目

分析項目は，以下の通りである。

- 放送年・月・日
- 番組（NHKニュース10／TBSニュース23）
- ニュースタイプ（ハード／ソフト）
- カテゴリー（政治，経済，文化，話題，スポーツ）
- 放送順位
- 報道量（秒数）
- 下位項目（有／無。１つのニュース項目を複数の異なった側面から報道している場合は，それらを下位項目として扱っている。）
- 登場人物の人数（合計人数，および，外国人，日本人それぞれの合計人数。ただし，母が日本人のジョン・健・ヌッツオは外国人としてカウントした。）
- 言及国（国際機関，地域は含めず）
- 日本との関連（有／無）

個々の分析項目に関しては，基本的には各番組におけるニュース項目とその時間等を記録した構成表（詳しくは萩原，2006）に基づいて判断を行っているが，「外国人の人数」「日本人の人数」は一部のニュース項目においては構成表で判断ができなかったため，番組を視聴して人数を確定した。また，日本との関連の有無は，ソフトニュースのみを対象とし，萩原（2006）における同一項目のコーディング内容を参照してコーディングを行った。

▶3　結　　果

（1）ソフトニュースとハードニュースの比較分析

分析対象となったニュースは計374件であり，NHKニュース10が220件，TBSニュース23が154件であった。このうちソフトニュースは99件，ハードニュースは275件であった。番組別にみたソフトニュース，ハードニュースの内訳は**表１**のとおりである。

①報道件数・報道秒数の推移

ニュースタイプ別に，報道推移をみたものが**図１**，**図２**である。ただし，11月，12月

●表１　番組別にみたソフトニュース・ハードニュースの集計結果（件数）

ニュースタイプ	ニュースカテゴリー	番組	
		ニュース10	ニュース23
ソフトニュース	文化	22	32
	話題	28	9
	スポーツ	4	4
ハードニュース	政治	114	101
	経済	52	8

Figure & Table

図１　ニュースタイプ別にみた報道件数の推移

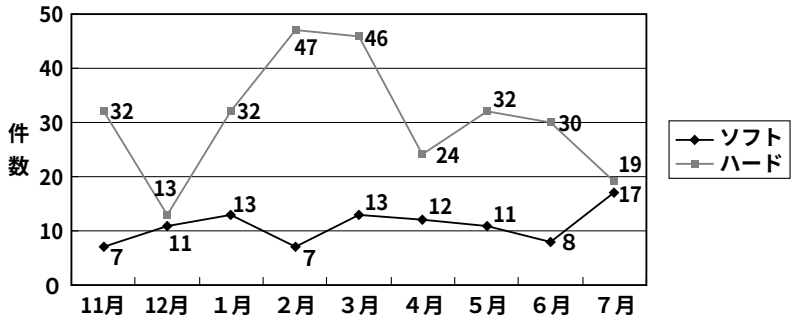

図２　ニュースタイプ別にみた報道秒数の推移

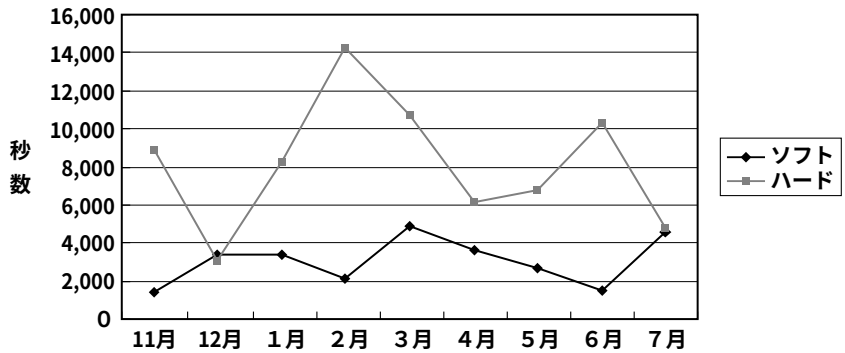

図３　ニュースタイプ別放送秒数

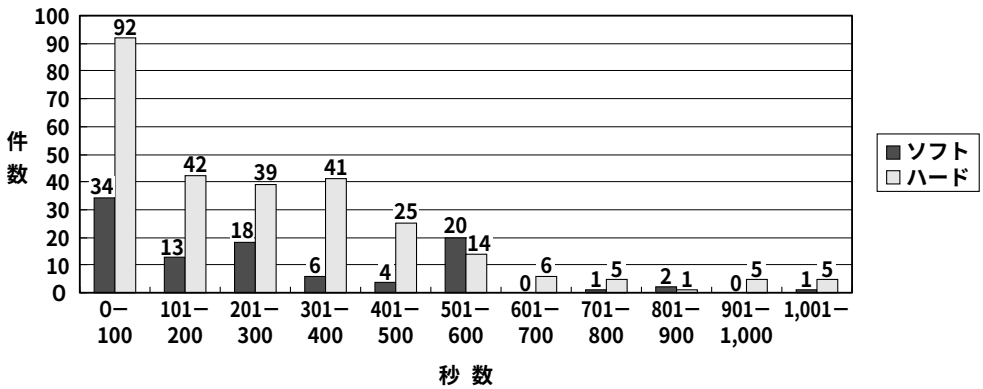

Figure & Table

は2003年，１月～７月は2004年である。

外国関連ハードニュース（ここでは政治経済ニュース）の報道件数・秒数が月ごとに大きく推移するのに対し，外国関連ソフトニュースは，量自体は少ないものの，月単位で見れば比較的安定的に報道されているようである。

②報道秒数

ソフトニュースの１件あたりの報道秒数は，平均277.46秒であり，ハードニュースでは

平均266.03秒であった。ソフトニュースとハードニュースの報道秒数の平均値の間に有意差は見られなかった（t(372)＝0.38，p>.10）。

ニュースタイプ別の報道秒数の集計結果を**図３**に示す。

ソフトニュースにおいてもハードニュースにおいても，100秒以下のニュースが全体の３割強（ソフトニュースで34.3%，ハードニュースで33.5%）を占めている。しかし，ハードニュースでは秒数が長くなるにつれ件数が少なくなる傾向が見られるのに対し，ソフトニュースでは501秒～600秒のニュースが全体のほぼ２割（20.2%）を占めている。これらの501秒～600秒のソフトニュースは，TBSニュース23の特集コーナー「金曜深夜便」において放送されているものがほとんどである。

③放送順位

ソフトニュース，ハードニュースそれぞれの放送順位を，**表２**に示す。

ハードニュース（政治経済ニュース）においては，放送順位が10位以内のニュースが全体の８割以上を占めるが，ソフトニュースにおいては放送順位が11位以降のニュースが全体の３割以上を占めている。

④下位項目

下位項目を含むニュースは，374件中114件（30.5%）であった。ニュースタイプ（ソフト／ハード）と下位項目（有／無）とのクロス集計結果は**表３**のとおりである（x^2（1）＝34.82, p<.001）。

ハードニュースにおいては下位項目があるニュースが275件目中107件と，全体の38.9%

●表２　ニュースタイプ別にみた放送順位

放送順位	ソフト		ハード	
	件数	%	件数	%
1	3	3.0	17	6.2
2	0	0.0	39	14.2
3	6	6.1	37	13.5
4	4	4.0	38	13.8
5	17	17.2	37	13.5
6	7	7.1	31	11.3
7	9	9.1	21	7.6
8	8	8.1	11	4.0
9	8	8.1	6	2.2
10	5	5.1	5	1.8
11～	32	32.3	33	12.0
計	99	100.0	275	100.0

●表３　ニュースタイプ別にみた下位項目の有無

下位項目	タイプ	
	ソフト	ハード
なし	92	168
あり	7	107
合計（件）	99	275

Figure & Table

を占めているのに対し，ソフトニュースでは下位項目のあるニュースはソフトニュース全体の7.1%に過ぎない。

⑤登場人物の人数

ニュースに登場する人物の合計人数は，ソフトニュースでは１項目あたり平均2.97人，ハードニュースでは平均3.24人であり，平均値に有意差はみられなかった（t(372)＝－0.66, p>.10）。ニュースに登場する外国人の合計人数は，ソフトニュースでは１項目あたり平均1.30人，ハードニュースでは平均2.11人であり，ハードニュースにおける外国人人数の方が有意に多かった（Welchのt(226.62)＝－3.03, p<.01）。

⑥言及国

１つのニュースあたりの言及国数の平均は2.00（SD＝1.45）であった。言及国数は最小で０，最大で11であった。外国関連報道を対象にしているにも関わらず言及国が０のニュースがあるのは，ここでは地域や国際機関への言及をカウントしていないためである。

ニュースタイプ別にみると，ソフトニュースにおけるニュース１件当りの言及国数の平均は1.45（SD＝0.95），ハードニュースでの平均は2.20（SD＝1.55）であり，ハードニュースにおける言及国数のほうが有意に多かった（Welchのt(282.15)＝－5.56, p<.001）。

ソフトニュースにおいて言及された外国は計35カ国，ハードニュースにおいて言及された外国は計61カ国，ソフト・ハードで共に言及があった外国は計26カ国であった。

ニュースタイプ別に言及国を集計した結果を，**表４**，**表５**に示す。ただし，表中の言及件数とは，当該国について言及しているニュースの件数，言及率とは，全ソフトニュース（99件）もしくは全ハードニュース（275件）中，当該国に言及しているニュースの割合を表す。

ソフトニュースにおいては，アメリカに言及しているソフトニュースは，全ソフトニュースの35.4%を占めており，圧倒的に言及率が高い。以下，フランス（言及率15.2%），ギリシャ（12.1%），韓国（11.1%），中国（7.1%），イギリス（6.1%），イタリア（6.1%），

●表４　ソフトニュースにおける言及国

国	言及件数	言及率	国	言及件数	言及率	国	言及件数	言及率
アメリカ	35	35.4	スペイン	2	2.0	パレスチナ	1	1.0
フランス	15	15.2	台湾	2	2.0	ブルガリア	1	1.0
ギリシャ	12	12.1	ブラジル	2	2.0	マレーシア	1	1.0
韓国	11	11.1	アイスランド	1	1.0	南アフリカ	1	1.0
中国	7	7.1	アラブ首長国連邦	1	1.0	ヨルダン	1	1.0
イギリス	6	6.1	アルゼンチン	1	1.0			
イタリア	6	6.1	イスラエル	1	1.0			
ロシア	6	6.1	イラン	1	1.0			
オーストラリア	5	5.1	オランダ	1	1.0			
ドイツ	5	5.1	カナダ	1	1.0			
アフガニスタン	3	3.0	カンボジア	1	1.0			
イラク	3	3.0	クロアチア	1	1.0			
メキシコ	3	3.0	サウジアラビア	1	1.0			
オーストリア	2	2.0	タイ	1	1.0			
北朝鮮	2	2.0	トルコ	1	1.0			

Figure & Table

ロシア（6.1%），オーストラリア（5.1%），ドイツ（5.1%）とつづく。

ハードニュースにおいても，アメリカに言及しているニュースが最も多く，アメリカに言及しているハードニュースは全ハードニュースの54.5%である。以下，北朝鮮（31.3%），中国（30.5%），韓国（18.9%），イラク（13.8%），ロシア（6.2%），台湾（5.8%）とつづく。

ソフトニュースとハードニュースを比較すると，ハードニュースにおいてはアメリカ，北朝鮮，中国は３割以上のニュースで言及があり，この時期の政治経済ニュースにおいてこれらの国が頻繁に登場していたことがうかがえる。特にアメリカへの言及率は５割以上であり，分析対象としたハードニュースの２件中１件以上でアメリカへの言及があったことになる。一方ソフトニュースにおいては，アメリカへの言及率が高いという点はハードニュースと共通だが，言及率は35.4%と，ハードニュースにおけるアメリカほどは言及率は高くなかった。また，ギリシャがソフトニュースにおいて頻繁に言及されているのは，アテネ五輪関連ニュースに負うところが大きい。

これらの言及国を，外務省の分類（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html）

●表５　ハードニュースにおける言及国

国	言及件数	言及率	国	言及件数	言及率	国	言及件数	言及率	国	言及件数	言及率
アメリカ	150	54.5	パキスタン	6	2.2	ポーランド	2	0.7	スロバキア	1	0.4
北朝鮮	86	31.3	メキシコ	6	2.2	ミャンマー	2	0.7	スロベニア	1	0.4
中国	84	30.5	グルジア	5	1.8	アルジェリア	1	0.4	チェコ	1	0.4
韓国	52	18.9	インドネシア	4	1.5	エジプト	1	0.4	中央アフリカ	1	0.4
イラク	38	13.8	アフガニスタン	3	1.1	エストニア	1	0.4	トルコ	1	0.4
ロシア	17	6.2	イタリア	3	1.1	オーストリア	1	0.4	ニュージーランド	1	0.4
台湾	16	5.8	オーストラリア	3	1.1	カンボジア	1	0.4	ハンガリー	1	0.4
ドイツ	13	4.7	カナダ	3	1.1	キプロス	1	0.4	ポルトガル	1	0.4
フランス	12	4.4	スペイン	3	1.1	キューバ	1	0.4	マルタ	1	0.4
イギリス	11	4.0	フィリピン	3	1.1	クウェート	1	0.4	モザンビーク	1	0.4
イスラエル	9	3.3	マレーシア	3	1.1	サウジアラビア	1	0.4	ヨルダン	1	0.4
イラン	9	3.3	アイルランド	2	0.7	シリア	1	0.4	ラトビア	1	0.4
リビア	9	3.3	インド	2	0.7	シンガポール	1	0.4	リトアニア	1	0.4
パレスチナ	8	2.9	ハイチ	2	0.7	スーダン	1	0.4	ルーマニア	1	0.4
ベトナム	7	2.5	ブラジル	2	0.7	スコットランド	1	0.4	ルワンダ	1	0.4
									レバノン	1	0.4

図４　地域別言及率

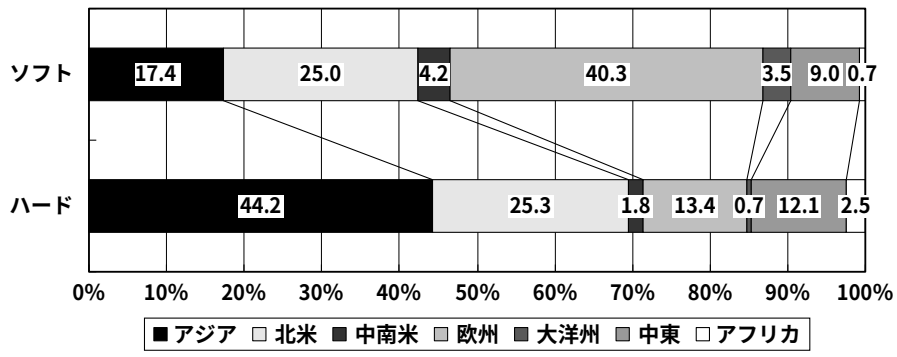

Figure & Table

に従ってアジア，北米，中南米，欧州，大洋州，中東，アフリカに分類し，各地域別の言及回数の割合を示したものが**図４**である。

ハードニュースにおける言及地域はアジアが最も多く，以下北米，欧州と続く。一方，ソフトニュースにおける言及地域では，欧州が最も多く，以下北米，アジアと続く。

（2）ソフトニュースが伝える外国像

ソフトニュースにおいて，日本との関連性があるニュースは67件，日本との関連性がないニュースは32件であり，ほぼ３分の２のソフトニュースは日本との関連性のある内容となっていた。

１つのニュース項目において言及している地域をアジア，北米，欧州，その他，および複合に分類し，地域と日本との関連性との関連をみたが，有意な連関は認められなかった（x^2 (4)＝2.59, p>.10)。

以下では，ソフトニュースの中で外国がどのように伝えられているかを，具体的なニュース内容について触れながら述べることにする。

ここでは，報道件数の少なかった中南米，大洋州，中東，アフリカに関するニュースを「その他の地域」として一まとめにし，アジア，北米，欧州，その他の地域別に見た報道内容の特色を明らかにすることを試みる。その際，地域別にみた内容の特色を明確にするため，１つのニュースにおいて複数の地域（たとえばアジアと北米など）について言及しているニュースを除き，アジアのみ，北米のみ，欧州のみ，その他の地域のみに言及したニュースの内容を探ることにより，各地域に関してソフトニュースがどのような内容を伝えているのかを探る。また，ソフトニュースには「文化」「話題」「スポーツ」の３つのカテゴリーが含まれるが，このうち「スポーツ」ニュースは，ソフトニュース99件中８件と件数が少なく，そのほとんどがアテネオリンピック関連ニュースであったため，ここでは対象から除外した。

アジアのみ，北米のみ，欧州のみ，その他の地域のみに言及している「文化」ニュースおよび「話題」ニュースは，件数が多い順に，欧州が27件，北米21件，アジア16件，その他の地域10件であった。なお，北米にはカナダとアメリカが含まれるが，分析対象のうちカナダのみに言及したソフトニュースはなく，北米に関する21件のニュースはすべてアメリカに関するニュースであった。

以下では，これらのニュースの具体的な内容を参照し，ソフトニュースで描かれる欧州，北米（アメリカ），アジア，その他の地域の姿を明らかにすることを試みる。なお，NHKニュース10とTBSニュース23とで同じニュースを伝えている場合も，それぞれを別個に１件としてカウントした。

①ソフトニュースが伝える欧州

欧州のみに言及した「文化」ニュースは14件であった。以下にその内容の概略を示す。

- パヴァロッティさん“最後の歌声”
- ドイツの最長のSF小説「宇宙英雄ローダン」シリーズ
- ロシア帝国の秘宝戻る
- 映画「イノセンス」の舞台裏　カンヌに旋風日本アニメ
- カンヌが注目日本のアニメ
- イタリア・ダビデ像輝き取り戻す
- カンヌ“男優賞”柳楽さんにトロフィー

- フランスに留学した黒田清輝作「湖畔」の秘密
- 森英恵さんパリで最後のファッションショー
- 世界初公開ギリシャ海中遺跡
- ギリシャの歌姫・アグネス・バルツァ
- シンセサイザー奏者「姫神」ブルガリアン・ヴォイスとの遭遇
- イギリスマンチェスター出身のテノール歌手ラッセル・ワトソンさん
- カンヌ男優賞柳楽さん喜，最優秀男優賞を最年少で受賞した柳楽優弥さんが改めて喜びを語る

このように見ていくと，「文化」ニュースが描く欧州では，日本との関係は，欧州で健闘する（した）日本人・日本文化の紹介（カンヌに旋風日本アニメ，森英恵さんのファッションショーなど６件），およびアーティストの来日（パヴァロッティ，アグネス・バルツァ，ラッセル・ワトソンの３件），日本人による欧米文化の取り入れ（ブルガリアン・ヴォイスの１件）という形で現れている。日本との関連のないニュースでは，欧米文化・文化遺産の紹介がなされている（最長SF小説，ロシア帝国の秘宝など）。

次に，欧州のみに言及した「話題」ニュース13件の内容を見てみることにする。

- 緑の服のサンタクロース来日，スカンジナビア政府観光局が北欧の自然の素晴らしさと環境の大切さを伝えるためにクリスマスまで滞在
- ドイツの「名前のある低気圧，高気圧」を紹介
- 植村直己冒険賞，真冬のシベリアを自転車で横断した安東浩正さんが受賞
- （フランスの民家で見つかった）伊能忠敬の地図修復終わる
- ギリシャキオス島“激烈”花火まつり
- サハ共和国（ロシア）ツンドラ地帯の永久凍土の中から１万年前のマンモス
- ツェッペリン飛行船日本へ，最新型機が13日ドイツから日本に向けて出発
- アテネ五輪記念切手きょう発表
- 今年も猛暑？パリの夏準備
- ロンドンで「ギネスブック」１億部記念パーティー
- 今日世界各地でボージョレ・ヌーボー解禁となり，産地でお祭り
- 謎の飛行物体!? スペイン北部の空に突如現れた光の物体は隕石
- イタリア中部で24日開かれた太り具合を競うミスコンテスト

これらのニュースのうち，日本関連のもの（緑の服のサンタクロース，シベリア自転車横断など）は計５件と，半分以下であり，その他のニュースは祭り・パーティ・コンテスト（ギリシャ花火まつり，ロンドンで「ギネスブック」１億部記念パーティーなど），あるいは小さな話題（ドイツの「名前のある低気圧，高気圧」，パリの夏準備など）に関するニュースであった。

②ソフトニュースが伝える北米（アメリカ）

前述のように，分析対象のうちカナダのみに言及したソフトニュースはなかったため，以下に紹介するニュースはすべてアメリカに関するニュースである。

まず「文化」ニュースにおけるアメリカを見てみることにする。

アメリカのみに言及した「文化」ニュースは，以下の14件であった。

- グラミー賞８冠ノラ・ジョーンズ，受賞後初来日
- 渡辺謙さん　アカデミー賞助演男優賞候補に
- アカデミー賞日本人受賞逃す，「ラストサムライ」の渡辺謙さん，「たそがれ清兵衛」外国語映画賞逃す
- ピカソの絵画史上最高額で落札
- “ 痛烈な風刺 ” 全米公開，賛否両論 “ 華氏911 ”
- トム・クルーズへのインタビュー
- アメリカで活躍するジャズミュージシャン秋吉敏子さん，「JAZZ」と「神楽」の融合
- 映画「ラストサムライ」の渡辺謙さん，米・ゴールデングローブ賞助演男優賞にノミネート
- 演出家宮本亜門，ニューヨーク・ブロードウェーに挑戦
- 米ゴールデングローブ賞渡辺謙さん助演男優賞は・・・，助演男優賞「ミスティックリバー」のティム・ロビンスが受賞
- 渡辺謙，アカデミー賞ノミネート
- “ サムライ ” 喜びの声，日本人として37年ぶりにアカデミー賞助演男優賞ノミネートの一報を受けた渡辺謙さんの喜びの会見
- 「ラストサムライ」で助演男優賞にノミネートされた渡辺謙さん受賞ならず
- 中村勘九郎・ニューヨーク公演開幕

以上のようなアメリカのみを取り上げた文化ニュースで最も主要なテーマは，アメリカで健闘する日本人を取り上げたニュースである（「ラストサムライ」の渡辺謙など10件）。のこりの４件は，ノラ・ジョーンズ，トム・クルーズのインタビューが各１件，“ 華氏911 ” 全米公開，ピカソの絵画史上最高額で落札であったが，ノラ・ジョーンズ，トム・クルーズは両者とも来日しており，これらは２件とも日本との関連性のあるニュースである。

つぎに「話題」ニュースにおけるアメリカを見てみることにする。

アメリカのみに言及した「話題」ニュースは，以下の７件であった。

- ひげ自慢コンテスト
- 山火事の「防火ライン」から遺跡発見
- ペリー提督と一行を迎えた際の幕府のもてなし，開国150年を迎えた横浜で再現，蘇える “ 幻の膳 ”
- 世界貿易センター駅復活
- およそ140年前にアメリカフロリダ沖で沈没した船に110億円相当の財宝が眠っていることが分かった
- 国際線の就航50周年を記念して日本航空がホノルルへの記念フライトに飛び立つ
- 神奈川厚木高校・全米チアダンス選手権で優勝

この中で日本が関連している話題ニュースは，ペリー提督と一行を迎えた際の幕府のもてなし，国際線の就航50周年の記念フライト，神奈川厚木高校・全米チアダンス選手権で優勝の３件であった。このうち全米チアダンス選手権優勝に関するニュースは，「アメリカで健闘する日本人」に関するニュースである。

日本との関連がないニュースはそれぞれ，「『防火ライン』から遺跡発見」，「世界貿易センター駅復活」，「ひげ自慢コンテスト」であった。

③ソフトニュースが伝えるアジア

アジアのみに言及した「文化」ニュースは次の10件であった。

- 韓国ドラマ人気の秘密
- タイの少年に「入れ墨」復活
- 横浜中華街，旧正月の行事に観光客でにぎわう。
- チェ・ジウさん広報大使に任命
- 韓国映画「実尾島」,「タブー」超え大ヒット
- 「高句麗壁画」が世界遺産に，高句麗壁画古墳：２～７世紀の高句麗高地用の風俗が描かれ北朝鮮と中国北東部に点在
- 30年前激動のインドシナ半島へ単身飛び込み消息を絶った若き戦場カメラマン，一ノ瀬泰造の映画「TAIZO」について
- 韓国・人気俳優ペ・ヨンジュンさんへのロングインタビュー
- 三味線の吉田兄弟，韓国公演
- “ 紀伊山地 ” が，中国・蘇州で行われていたUNESCOの世界遺産会議で世界遺産に

以上のアジアにおける文化ニュースにおいて，アジアで健闘する日本文化・日本人に関するニュースは１件であった（三味線の吉田兄弟，韓国公演)。その他のニュースで日本との関連があるニュースは，韓国ドラマ関連ニュース（３件)，戦場カメラマン一ノ瀬泰造の映画，横浜中華街旧正月の行事，高松塚古墳と紀伊山地世界遺産認定（世界遺産会議の開催地が中国)，に関するニュースであった。また，日本との関連性がないニュースは，韓国映画「実尾島」，高句麗壁画が世界遺産に認定，タイの少年に「入れ墨」復活，に関するニュースであった。

また，アジアのみに言及した「話題」ニュースは，以下の６件であった。

- 蒸気機関車台湾へ
- 中国でのバレンタインデー事情
- 韓国版 “ 新幹線 ” KTX，明後日の営業開始を前に，今日，開通式と試乗会
- 日本の高校生 英語力３か国（中国，韓国，日本）で最低
- 中国，都市部で学校が不足
- 文化庁・国語に関する世論調査，日本学校でも若者言葉を教え始めたとして，韓国や台湾からの就学生のサウンドバイトあり

話題ニュースにおいて日本との関連性のあるニュースは，蒸気機関車台湾へ，日本の高校生英語力３か国で最低，国語に関する世論調査の３件であったが，これらのニュースも，アジアで活躍する日本人というよりはむしろ，アジアと関わる日本，アジアの中の日本に関するニュースであるとみなされる。

日本との関連性がないニュースは，中国バレンタインデー事情，中国都市部で学校が不足，韓国版 “ 新幹線，開通式と試乗会の３件であったが，これらのうち特に中国に関する２件は，国内事情を描くという形でのニュースであるとみなされよう。

④ソフトニュースが伝えるその他の地域（中南米，大洋州，中東，アフリカ）

その他の地域のみに言及した「文化」ニュースは，以下の５件であった。

- 高松塚古墳で顔料に“青い宝石”壁画にアフガニスタンの石ラピスラズリがシルクロードを経て使われていた可能性
- 米倉涼子さんブラジルでドラマ
- ASTRO RICO,「タンゴ新世紀の旗手」と称され本場アルゼンチンをはじめ世界的にも高く評価
- 映画「午後の５時」アフガニスタン女性の視点で―東京女子大で上映会
- ライブハウスJIROKICHIオーナー荒井ABO誠，経営の傍らオーストラリアの民族音楽ディジュリドゥの演奏者として活動

これらのニュースでは，全てのニュースにおいて日本との関連性があり，また，日本はニュースの主要な対象国となっている。また，その他の地域のみに言及した「話題」ニュースは，以下の５件であった。

- 聖地のクリスマス
- トルコ軍艦，潜水調査で遺品確認，明治時代に和歌山県串本町沿岸で沈没
- 音楽に希望を託して，南アフリカに子どもたちを対象にした音楽教室
- パンダ２世誕生ならず（メキシコの動物園からメスを預かったが人工授精失敗）
- 上野動物園にメキシコからジャイアントパンダがお嫁入り

これらのうち日本との関連性があるのは，トルコ軍艦潜水調査，およびメキシコから来たパンダに関するニュース２件の，計３件である。これらのニュースにおいても，ニュースの主要な対象国は日本であり，これらのニュースにおいて伝えられているトルコ，メキシコに関する情報は少ない。また，その他の２件の特徴としては，いずれもトーンが必ずしも明るい内容ではないという点が挙げられる。聖地のクリスマスに関するニュースではイスラエルとパレスチナの激しい対立の中でのクリスマスの様子を，南アフリカの音楽教室に関するニュースでは，貧困やエイズの感染拡大など多くの課題を抱えながら子どもたちに音楽を通じて希望を与えようという取り組みを，それぞれ伝えている。ソフトニュースはハードニュースと異なり，比較的明るい内容を伝えているものがほとんどであるが，これらのニュースは，厳しい社会情勢を比較的暗いトーンで伝えているとみなされる。

▶4　考　　察

（1）ソフトニュースとハードニュースの比較分析結果の考察

以下，報道件数・秒数，下位項目の有無，放送順位，登場人物の人数，言及国に関する分析結果について，順次考察する。

まず，報道件数・報道秒数に関する結果からは，外国関連ソフトニュースの報道は，量は少ないが月単位で見れば，比較的安定的に報道されていることがうかがえる。また，外国関連ハードニュースの件数は外国関連ソフトニュースの３倍近くであった。前述のように川竹ら（2004）は外国関連報道においてソフトニュースは極めて少ないと指摘しているが，本研究においても，犯罪や事件事故・戦争などに関する報道や日朝関係ニュースを分析対象から除外してもなおハードニュース（ここでは政治経済ニュース）のほうがソフトニュースの数を上回っており，これは川竹ら（2004）の指摘を裏付ける結果であったとみなされよう。

また，下位項目の有無に関する結果からは，ハードニュースのほうが下位項目のあるニュースが多いことが示されているが，この結果は，ハードニュースのほうが対象トピックを多面的に報じられるということを表しているのかもしれない。また，ソフトニュースで報道量が多いものは特集が多く，それらは下位項目を含まない構成になっているということも一因と考えられる。

放送順位に関する結果からは，ソフトニュースはハードニュースにくらべて放送の優先順位が低いということがうかがえる。報道秒数においてはソフトニュースとハードニュースとの間に有意差はみられなかったが，これはソフトニュースが特集形式で報じられることが少なからずあり，これらの特集ニュースがソフトニュースの報道秒数の平均値を上げているためであると推測される。

登場人物の人数，言及国に関しては，ソフトニュースに比べハードニュースは言及国数も登場する外国人も多いという結果が得られ，ハードニュースのほうが１件あたりに多くの外国，外国人が登場していることが示された。また，ソフトニュースにおいて登場している国は計35カ国であり，61カ国が登場しているハードニュースに比べると多様ではなかったが，これはソフトニュースの件数自体がハードニュースよりも少なかったことも一因と考えられる。また，ソフトニュースは，言及国はハードニュースに比べて多様ではないものの，ハードニュースにおいて言及率が５％以上の国は，すべてソフトニュースにおいても登場していた。ハードニュースで頻繁に言及される国がソフトニュースでも言及されているのは，社会情勢を受けて報じられるソフトニュースが存在することが一因であると思われる。

最後に，言及国を地域別に比較すると，ソフトニュースはハードニュースに比べ，アジアに対する言及件数の割合が相対的に少なく，欧州に対する言及件数の割合が相対的に大きかったが，この結果に関する考察は次項で述べたい。

（2）ソフトニュースが伝える外国像に関する考察

ソフトニュースにおいては，ほぼ３分の２のソフトニュースは日本との関連性のある内容となっていた。しかし日本とどのように関連しているかは地域によって異なっていた。また，全体的な特徴を述べると，日本との関連性があるニュースでは，海外で活躍する日本文化，日本人を取り上げるニュースが主流であった。

欧州とアメリカに関するソフトニュースの内容は比較的類似していたので，以下では欧米のみ，アジアのみ，その他の地域のみに関するソフトニュースについて，順次考察することにする。

まず，欧米に関するソフトニュースでは，日本との関連性は主に，「欧米で活躍・評価される日本人・日本文化」という形で現れていた。また，日本との関連性がないニュースにおいては，祭り・パーティ・コンテストといった内容が目立った。これらの出来事は，映像として目を引くものであり，そのような映像としての面白さが主な原因で報じられたのではないかと考えられる。

一方，アジアに関するソフトニュースでは，アジアで活躍する日本人が伝えられることは少なく，このことがアジアに関するソフトニュースの少なさの一因となっているのではないかと考えられる。また，日本との関連性がないニュースでは，絵になるニュースというよりはむしろ，タイで流行している入墨，中国バレンタイン事情など，その国での生活ぶり，生活事情を紹介するという形のニュースが主流であった。アジアに関してこのようなニュースが目立つのは，欧米の生活に関する情報は多く伝わっているがアジアに関しては知られていない部分が多いという認識があるためではないかと思われる。

最後に，その他の地域（取り上げられることが少なかった地域）に関するソフトニュースに関しては，数が少ないため傾向を判断することは困難ではあるが，日本との関連がある場合はニュースにおける主要な対象国は日本であり，関連性がないものはトーンが暗いという特徴があるように思われる。

（3）むすび

比較分析からも示されたように，ソフトニュースはハードニュースに比べ，ニュースとしての優先順位の低いニュースである。ソフトニュースのニュース性が低いということは，「何を伝えるべきか」というニュースの選別基準によって伝える内容が拘束されているハードニュースに比べ，ソフトニュースにおいては伝える内容に関する自由度が比較的高いということを意味している。このことは，今回分析対象としたNHKとTBSの２局のニュース番組において，伝えられたソフトニュースの２局間の重複が少なかったことからも裏づけられる。つまり，外国関連ソフトニュースは外国関連ハードニュースに比べ，伝えるべき内容を伝えているというよりはむしろ，外国に関して，伝えたい内容を伝えているという側面を持つとも考えられる。

また，今回の研究結果から明らかであるように，外国関連ソフトニュースは，件数自体は少ないものの月単位でみれば安定した報道があった。つまり，ソフトニュースは本来ニュースとはいえないニュースであるかもしれないが，それらはニュース番組において持続的に伝えられているという性質を持つことがうかがえる。

このように外国関連ソフトニュースが，外国に関して比較的自由な内容を，月々安定的に伝えているとするならば，ソフトニュースが描く外国像を明らかにすることはニュースが外国イメージに与える影響を考える上で，若干の示唆を与えるものではないかと思われる。

ハードニュースにおいてどの国が多く報じられるかは分析対象期間にどのような事件があったかによって大きく変動しうるのに対し，ソフトニュースは，その時々の社会情勢を反映したニュースもみられるものの，本来大きな出来事を報じるという性質のニュースではないため，報道量が多い国の変動が比較的少ないとも考えられる。

また，ソフトニュースは内容に関する自由度が高いことから，どのような内容が伝えられるかという点において，価値観が入りやすいという性質を持つと考えられる。たとえば，「海外で活躍する」といった場合の海外とは欧米を指すものであるという考えや，欧米文化に対する憧憬といった，社会において暗黙に共有されている固定観念や価値観が，そのような固定観念・価値観を含む外国関連ソフトニュースが月々安定的に報じられることによって強化される可能性があるとも考えられる。

もしこのようにソフトニュースが持続的に，特定の外国あるいは地域について固定観念を含む内容を伝えているならば，それらが外国イメージにおよぼす影響は少なくないと推測されるだろう。

今回の結果からも示されるように，ソフトニュースにおいて伝えられる内容は概して明るいものであり，外国に関してポジティブなイメージを伝えている。ソフトニュースは，ハードニュースとは異なった側面から，外国の姿を描いている。

ニュースのソフト化の傾向が指摘される現在，これらの外国関連報道においてもソフトニュースが増加するのかどうかが注目される。もし外国関連報道においてもソフトニュースの増加傾向が見られるのならば，外国関連報道はソフトニュースが極めて少なくかなりの部分が対象国のイメージをネガティブにしている（川竹ら，2004）という傾向は，今後変化する可能性もあるだろう。

最後に，本研究はNHKニュース10とTBSニュース23のみを分析対象としており，また，ハードニュースを政治経済ニュースに限定している。他の局・ニュース番組を含めれば，あるいはハードニュースに事件事故報道を含めて分析を行えば，本稿で述べた結果とは異なった結果が得られる可能性は十分考えられる。

●引 用 文 献

Baum, M. A.（2002）Sex, lies, and war: How soft news brings foreign policy to the inattentive public. *American Political Science Review*, 96, 91-109

Carroll, R. L.（1985）Content values in TV news programs in small and large markets. *Journalism Quarterly*, 62, 877-882, 938

外務省　各国・地域情勢　http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html

萩原滋（1992）テレビにおけるニュース報道の分析―午後６時台と９時以降の番組比較を中心に―　慶應義塾大学新聞研究所年報，38，29-52

萩原滋（2001）ニュース番組の内容と形式―娯楽化傾向の検証と番組の類型化―　萩原滋編著　変容するメディアとニュース報道―テレビニュースの社会心理学―（pp.67-114.）　丸善株式会社

萩原滋（2006）日本のテレビにおける外国関連報道の動向（2003年11月～2004年８月）　メディア・コミュニケーション（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所），56，39-57

Jamieson, K. H. & Campbell, K. K.（1983）*The interplay of influence: Mass media & their publics in news, advertising, politics*. Belmont, Calif: Wadsworth Publishing Company

金山勉・アン・クーパー=チェン（2005）ニュースの国際流通と市民文化　伊藤陽一編　叢書21COE-CCC多文化世界における市民意識の動態14　ニュースの国際流通と市民意識（pp.77-109）　慶應義塾大学出版社

川竹和夫・杉山明子・原由美子（2004）日本のテレビ番組の国際性―テレビ番組国際フロー調査結果から―　放送研究と調査NHK放送文化研究所年報，48，213-250

上滝徹也（1989）テレビニュースの多様化とその内実　放送学研究，39，171-183

Prior, M.（2003）Any good news in soft news? The impact of soft news preference on political knowledge. *Political Communication*, 20, 149-171

Scott, D. K. & Gobetz, R. H.（1992）Hard news/ soft news content of the national broadcast networks, 1972-1987. *Journalism Quarterly*, 69, 406-412

Smith, F. L.（1979）*Perspectives on radio and television: An introduction to broadcasting in the United States*. NY: Harper & Row

Wu, H. D.（1998）Investigating the determinants of international news flow: A meta-analysis. *Gazette*, 60, 493-512

（山本　明　慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員）